

巻 頭 言

この第29号は、まさに新型コロナウイルス感染拡大の中、企画、発刊となります。まず2020年1月6日厚生労働省が中国武漢で原因不明の肺炎、注意喚起、1月15日日本国内で初の感染確認、1月30日WHO「国際的な緊急事態」宣言、2月3日乗客の感染が確認されたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」横浜港に入港（NHK特設サイト新型コロナウイルス時系列ニュースより）と記憶に新しいところです。こうした新型コロナウイルス感染がわが国で拡がる中、「20世紀最悪のパンデミック（感染症の世界的大流行）とされる100年前の『スペイン風邪』（1918～20年）」という朝日新聞記事（2020年4月24日）に、目がとまりました。

まさに、20世紀最悪のパンデミックが始まりだした1918年は、まさしく大正大学社会福祉学科の前身である宗教大学社会事業研究室が開設された時でした。この「スペイン風邪」により、日本国内でも38.6万人が亡くなり、同時に、不況により多くの人々が困窮した時代でもありました。そのような社会情勢の中で、社会事業研究室が始動、当時の教員、学生は、社会調査の実施、貧困地域に住みながら困窮者の救済にあたり、社会事業の学問と実践そして宗教を結びつけ、社会事業家として活躍していったのでした。現在、コロナ禍により、失業や収入減により生活困窮に陥る人々の増大、うつ傾向の増大など深刻な生活問題が起こってきております。厳しい状況にあり、皆さんたちの先達が社会事業家として実践したことに思いを馳せ、ソーシャルワーカーとして今、何をなすべきかを考えなくてはなりません。

そうしたことから、今年度の学会大会テーマは、「安全で安心な社会共生の地域づくりに向けた福祉課題」とし、公開シンポジウム「新型コロナウイルス禍と実習教育のあり方－学内実習の主旨とプログラム内容」では、2020年度国家資格養成の現場実習を学内実習（オンライン実習）で実施したその実践記録を後世に残すために、坂本智代枝、新保祐光両先生には実習プログラムの内容や工夫、配慮した点についてまとめていただきました。

一方、高橋一弘先生がご退職をされるため、最終講義を掲載いたします。先生は、2003年4月に着任、18年間研究教育に携わってくださいました。先生は、神奈川県職として障害領域ならびに児童領域の仕事を行なされた後、専門学校の教員となりながら、それまでの経験を基盤となさり本学大学院修士課程を修了され、社会福祉教育の道を歩み続けてこられました。最終講義のテーマである里親養育・里親ソーシャルワークは、日本ではこれから充実させていかなければならない領域です。先生は長年、その研究に取り組んでこられました。これを機に、里親養育や里親ソーシャルワークへの研究や実践に対するすそ野が広がっていくことは、本学科における研究、教育、実践の歴史の1頁になることと存じます。

奇しくも、高橋先生の大学院時代の恩師である名誉教授野坂勉先生が、2020年10月12日にご逝去されました。野坂先生がお元気でしたら、教え子である高橋先生の最終講義を感慨深く受けとめられたことでしょう。そして野坂先生から、ひと言をいただく機会がもてなかったことが残念でなりません。

特集論文・実践報告は、高橋先生と同じころに大学院において学ばれ、子ども家庭福祉領域の研究、教育や実践を行っている方々に寄稿をお願いし、示唆に富む研究、実践の成果をまとめてくださいました。

最後に、今号も会員から時期に叶った投稿論文があり、会員相互の研究、実践の刺激となることを願ってやみません。

2021年3月15日

大正大学社会福祉学会副会長

宮崎 牧子

鴨台社会福祉学論集 第29号 目次

巻頭言	宮崎 牧子
-----------	-------

I 最終講義

子ども家庭福祉からみた地域づくり ～里親養育と里親ソーシャルワークを中心に～	高橋 一弘	1
---	-------	---

II 大正大学社会福祉学会第44回大会

大会テーマ：安全で安心な社会共生の地域づくりに向けた福祉課題 公開シンポジウム：新型コロナウイルス禍と実習教育のあり方 新たな社会との良循環を志向するソーシャルワークの創造	新保 祐光	14
学内実習の主旨とプログラム内容	社会福祉士 新保 祐光 精神保健福祉士 坂本智代枝	16 18

III 特集論文・実践報告

社会的養護の原理と家庭の機能 ～保育士養成を視点として～	吉田 眞理	21
社会福祉士による刑事施設退所者への社会復帰支援の「視座」と「手法」に関する一考察 —『子ども虐待』の視点から—	村田 紋子	30
ソーシャルワーク演習におけるソーシャルアクション学修 —地域に根ざすオレンジリボン運動の試みから—	金 潔	39
文京区ファミリー・サポート・センター事業の実践とその課題 ～2001年大正大学実践分析研究との比較から～	根本 浩典	49

IV 研究論文

スクールソーシャルワーカーに求められている役割 —スクールソーシャルワーカーへの依頼内容の分析からの検討—	新保 祐光 笠井穂乃香	54
--	----------------	----

近代期の日本における福祉思想の社会構造史 (6)		
—明治期における社寺関連法令の特性分析—	坪井 真	62
訪問看護師による訪問介護員との連携及び連携での困難	須加 美明	70
Current Status of the Adult Guardianship System in Aomori Prefecture :Focusing on Types of Social Welfare Service Providers and their Users	石田 賢哉 葛西 孝幸	79
V 追悼 野坂 勉名誉教授を偲んで	鷺見 宗信	88
VI 課程博士・修士論文抄録		89
VII 学部卒業研究の論題一覧		
令和2年度 卒業研究論題一覧		95
VIII 論集諸規程・学会会則		
鴨台社会福祉学論集発行要領		100
鴨台社会福祉学論集投稿規程		101
鴨台社会福祉学論集リポジトリ規程		102
大正大学社会福祉学会会則		104
編集後記		